

の滝が連続する場所に出る。よく磨かれて滑り台のようになった滝ばかりで、特に3番目の滝が越せない。和泉さんの肩に乗って左岸草付に登り、不安定な草付をトラバースして上に出る。あとはザイルを出してゴボウ抜きに引き上げた。

このあとしばらく河原歩き。そして7m滝が行く手を阻む。ここは登れない。右岸を搦ぐことにするが、出だしの岩場基部の草付のトラバースがいやらしかった。樹林帯に入れば、あとは安心。灌木を支点にしながら沢に降り立つ。

このあと滝の途中にある罅穴がちょうどよいスタンスになる4mの滝を過ぎると、沢は明るくなる。随分水量が減ったなあと思っていたら、やがて濁沢となる。岩の間から湧き出す水がこの沢の水源。のどをうるおし、ポリタンにつめて出発すると、すぐに二俣。右俣はブッシュがかぶっている。下降を予定している二の平沢に向かうには、左俣の方が便利。

左俣はすぐに10mの滝をかける。よく磨かれた滝で、登れない。右岸の樹林帯に入り込んで搦ぐつもりであったが、途中から眺めると、沢の上部はずっとスラブが続いている。沢に戻るのも急斜面のトラバースで大変。そのまま尾根に逃げた方が利口と判断して、小尾根をつめあげ、1時間ほどかけて稜線に出る。出た所は、大松沢と二の平沢、押倉沢の3つが集まる小ピークのすぐ東側であった。

(記・

[タイム] 押倉沢出合(7:40)→二俣(8:40, 8:50)→左俣終了(11:50)→稜線(12:50)

大松沢左俣

1989年8月26日

L

三条部落のキャンプ地より本名ダムの方へ少し戻り、霧来沢に下降して大松沢の出合に向かう。出合着8時。

大松沢に入るとすぐゴルジュとなり、右に曲がったところに6mの滝がかかる。多分釣人が使うのであろう、左岸にロープがかかっている。利用させてもらって何なく通過。こここのところは6m滝以外にもいくつかの小滝がかかり連瀑となっているが、ホールドもあり、無事通過する。

ゴルジュ通過に15分を要した後は、河原歩きとなる。だらだらとした河原歩きが続いて飽きてきた頃、二俣手前に2mと4m2段滝が連続してかかる。ここはホールドがなく、左岸の草付を利用して越える。帰路はザイルに頼ることとなっ

た。

二俣到着8:55。出合から約1時間である。左俣を遡って右俣を下降ということにして、左俣に入るが、結果から言えば、逆コースをとるべきであった。

左俣は2~3mの滝がいくつかかかるが、別に困難というほどのものでもない。やがて7mの斜瀑となる。これを越えて少し進むとヤブとなったので、右岸の尾根に取り付く。30分の急登で、袖の窪山頂に立った。

袖の窪山頂で押倉沢パーティと無線交信。押倉沢パーティははるか下方で悪戦苦闘の様子。天気もいいし、時間はあるしということで、山頂でトカゲを決め込むが、これが大きな失敗につながるとは夢にも思わなかった。(記・)

[タイム] 大松沢出合(8:00)→二俣(8:55)→沢終了(10:30)→袖の窪山山頂(11:00)

大松沢右俣

1989年8月26日
L:

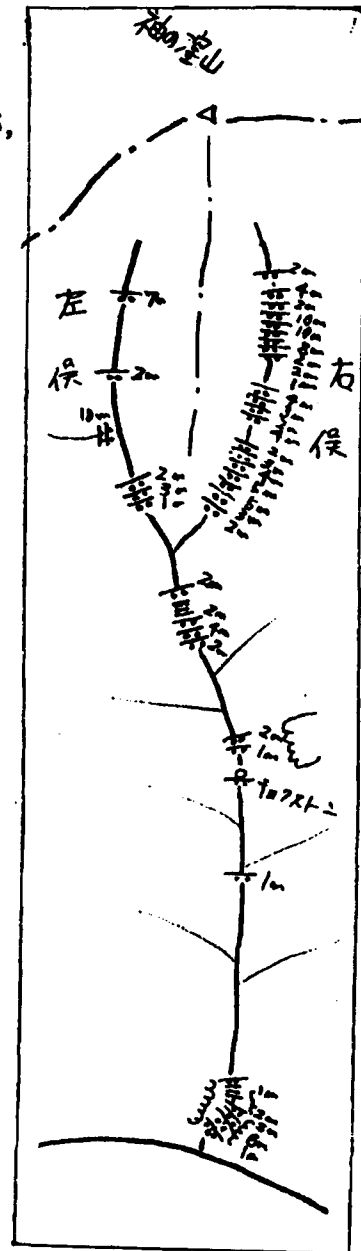
袖の窪山頂より尾根を北西に少し進んだ所から下降開始。急斜面を木につかまりながら下降。遡りはたいしたことがなかったから、帰るも楽だろうなど考えたのが、大きな間違いであった。

右俣は、二俣まで連瀑、連瀑、連瀑……。

ザイルを出しては回収の繰り返しである。何回繰り返したかわからない。記録をとりとり下るが、最後にはメモをとるのもいやになってしまった。捨て縄の数も心配になってくるほどである。

14:55、やっとの思いで二俣。左俣の遡行に2時間。右俣の下降には3時間もかかってしまった。

あとは来た道に戻るだけ。霧来沢出合着16:00。長い一日であった。



(記・)